

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873600450		
法人名	有限会社 グループホームあまご		
事業所名	グループホーム あまご		
所在地	喜多郡内子町只海甲855番地15 (電話) 0893-44-3551		
管理者	藤澤 邦哉		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 3 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 13 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 13 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 13 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	6 名		要介護 2 5 名
要介護 3	2 名		要介護 4 4 名
要介護 5	1 名		要支援 2 名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の深い人生観から町の造成地の一面を購入して建てられたホームは、古民家を思わせる佇まいがあり、屋根にはホーム名でもある「あまご」の瓦が乗っている。ホームすぐ傍にある運営者の自宅を、地域のいきいきサロンの場として開放しており、地域密着型サービス事業所としての理念の実践に取り組むとの思いが伝わってくる。また、運営者は協力医療機関に勤務する医師でもあり、利用者の健康管理への配慮は細やかに行っている。職員も、運営者と常に連携が取れており不安はないと感じている。入居時には全身硬縮で寝たきりだった方が歩けるようになったケースがあるなど、医療・看護・介護がうまく連携できていることがうかがえる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
改善課題として提案された①重度化対応・終末期ケア対応指針の作成②災害対策マニュアルの作成③栄養管理の3点について、運営者を含めた全員で検討している。研修を重ね、マニュアルを作成し、運営推進会議でも報告するなど、確実に改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
全職員が全項目を自己評価し、全員で話し合って作成している。各評価項目を理解するところからは始める必要がある職員もいるが、各自がわかる範囲で積極的に参加している。評価結果は今後の取り組み指針として全職員で共有し、質の向上に努めたいと考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
運営推進会議は2か月に1回開催し、その参加者は多彩で内容にも工夫が見られる。運営推進会議の議長である自治会長は「ホームができて、地域全体が活性化し、助け合いの精神が養われている」と話している。また、地域から要望のあったAED(自動体外式除細動器)をホームに設置し、使用方法の学習会等も行っている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の来訪時、急変時にはその都度丁寧に現状報告する他、月1回発行している「あまごだより」には利用者担当職員からメッセージ欄が設けられ、必ず一筆入れることになっている。当ホームの課題の一つは「家族との結びつきが弱いこと」と職員は思っている。その背景を理解することも含めて、家族と共にホームを運営出来るよう時間をかけて工夫されることを望みたい。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
小学校・保育所や、運営者の自宅を開放して実施しているいきいきサロンとの相互交流は活発である。子どもたちはホームに立ち寄って利用者と会話したり、ホーム周辺で遊んでおり、利用者は子どもたちを見守っている。また、近所の方たちもホーム前のベンチを休憩場所として利用し、利用者との会話を楽しんでいる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) ふなっこ

記入者(管理者)
氏名 山本 由子

評価完了日 平成 20 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域とのふれあいを理念にかかげ利用者、職員ともに地域の一員として暮らすことに努めている。 (外部評価) 開設前に運営者がホーム周辺の民家を全戸訪問し、地域密着型サービスやホームの意義等を説明している。「地域とのふれあい」を大切に活動を展開しているが、平成20年度は「地域に何が出来るか？利用者一人ひとりが地域においてどのような役割が果たせるか」を念頭において取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々の介護で迷ったり、悩んだりすることがある時は、みんなで話し合い理念に立ち返るようにしている。また、理念を汲み取ったような替え歌を作り朝の時間、管理者、職員、利用者ともに歌ったりしている。 (外部評価) 理念はチームケアの根幹をなすものと理解しており、日々の教育も理念に基づいて実施している。管理者と職員は理念を共有したうえで、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の人、家族等を対象とした研修会を開き多くの方に参加をしてもらい地域の中で暮らすことの重要性を理解していただいた。	※	家族よっての重要性の温度差があるので徐々にいい方向に縮めていきたいです。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の方と出会った時は必ず挨拶をしている。登下校中の子供が声をかけてくれたり、遊びの途中で玄関先で休んだりしている。また、近所のお母さん方には何かあればここにかけこみなさいとまで言われている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 孤立せず、自治会役員や副区長、PTA会長を務め地域の行事等に精通して地域の一員としての役割を果たしている。職員の中には、事業所の近くに住む者も複数おり地域の人間関係にも歴史にも詳しい。運営者自宅を開放し、いきいきサロン幸輪会を催しホームの利用者も参加している。 <hr/> (外部評価) 小学校、保育所、運営者の自宅を開放して実施する「いきいきサロン」との相互の交流は活発に行っている。子どもたちはホームに立ち寄って利用者と会話をしたり、ホーム周辺で遊んだりしており、利用者は子どもたちを見守っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営者の自宅を開放しサロン幸輪会で地域の高齢者に集まって頂き、暮らしの活性化に役立てている。また、AEDを設置し、地域にも利用できるようにしている。小学校などの地域福祉の教育の場所にもなっている。職員の中でも常々地域貢献の役割はないかと話し合いがこなわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価後にみんなで話し合い、事業所への評価を受け止め、評価により分かった取組みたい内容や改善すべきところを共有し、利用者のより良い暮らしに役立てれるように取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 全職員が全項目を自己評価し、全員で話し合って作成している。前回の外部評価で改善点として挙げられた項目については十分話し合い、具体的な改善策を見出して具体的に取り組んでいる。	※	外部評価結果は運営推進会議で報告しているが、今後は自己評価の時点から運営推進会議のメンバーや地域の方々の参加を求めたいと管理者は考えているため、今後の取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の活動報告を行い、評価の報告をおこなっている。地域密着型サービス評価が地域の人間が入ってないためサービス評価が分かりにくいという声もありますし関心度も薄い気がする。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催しており、参加メンバーの立場は多彩で、内容にも工夫が見られる。運営推進会議の議長である自治会長は「ホームができて地域全体が活性化し、助け合いの精神が養われている」と話している。町内のグループホーム合同運動会への参加という形で運営推進会議を開催するなど、開催方法にも工夫がある。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 不明な点は何でも相談するようにしている。保健センターの方へ栄養相談を行った。また、新しい情報等に関してメール等でやりとりしている。 (外部評価) 町内グループホーム連絡会があり、相互に連絡を取り合うなど町との連携はとれている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部での研修に職員が参加した。事業所内でも勉強会を行った。	※	必要な人というのがどういう状態の人が判断できないので具体的事例を勉強して活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業者が事業所内で虐待防止の徹底の勉強会を行っている。公的機関からの文書の回覧、職員がよく目につくところに掲示してある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用規約を十分に説明して理解していただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や担当者会議にも参加してもらったり、御意見箱も活用している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月一回、近況報告をしている。急変の時はすぐに連絡をとって状態の報告、対応を詳しく説明している。金銭管理については面会時に出納帳を見て頂いたり、写しを送付している。職員の移動時にはお知らせしている。家族の方に会う機会があれば新しい職員は自己紹介を行っている。	※	手紙や電話やインターネットを活用し月一回でなくもう少し頻度を上げた利用者の暮らしぶりの報告に努めたい。
			(外部評価) 家族の来訪時や、利用者に変化があった場合にはその都度丁寧に状況を報告している。月1回発行のホーム便りには利用者ごとの担当職員がメッセージを記入する欄を設けており、最近の状況等を記入して知らせている。	※	管理者及び職員は、もっと情報提供や報告の機会を増やしたいと考えており、メールやインターネットの活用も含めて検討している。些細なことでも、職員の感じたことなどを家族に伝える方法などについてさらに工夫することを期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に家族会が参加し、意見を言う場を設けている。ご意見箱もある。	※	面会の数や電話などのない家族様には、もう少しアプローチをして意見が気軽に聞ける関係作りに努めたい。
			(外部評価) 来訪時や、家族会・運営推進会議の時などには家族に意見等を聞くようにしている。また、苦情相談窓口を明示し、玄関に意見箱を設置する等、意見等を伝えてもらう場は設けているが、苦情に類するものは出されていない。	※	管理者及び職員は、家族との結びつきが弱いことをホームの課題と考え、今後の取り組みを検討している。「家族と共にホームを運営する」ことができるよう、時間をかけて家族の協力を得ながら運営体制を工夫していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度、全員が集まり意見交換ができる場がある。談話室があり、個別的にも話せるような環境がある。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 現在のところ利用者家族からの勤務調整に関する要望はない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 2ユニットあるが、区別なく利用者に顔なじみになって頂けるよう常日頃から挨拶などの声かけや一緒にレクを行っている。 (外部評価) 職員の離職はほとんどなく、職員は2ユニットどちらの利用者とも顔馴染みになれるよう、日頃から声かけ等に十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内勉強会を月一回行っている。その中で事例発表なども行っている。社協やGH連絡協議会の行っている研修会にも参加して職員の育成に努めている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会等の外部研修にはホームから参加を呼びかけ、参加経費はホームが負担している。研修報告は文章及びホーム内研修会での伝達としている。職員は介護福祉士等資格取得に対して積極的で、職員同士で声をかけ合いながら取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 内子町GH連絡協議会に参加し、相互の情報交換や合同の研修会などの機会を設けている。 (外部評価) 毎月開催される町内グループホーム連絡会に参加し、研修を含めた情報交換をしている。また、連絡会として地域の方も巻き込んだ合同運動会や認知症講演会を開催し、好評を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 有休休暇を積極的に取れるような体制づくりをしている。悩み事の相談にも関わっている。時折、食事会や飲み会を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者やホーム長とのコミュニケーションで各職員の把握をしている。研修や資格取得に働きかけ。職員の能力が存分に引き出せるよう、役割を任せてそれをバックアップできるように心がけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前に本人と面会をして話を聞きながらアセスメントをしている。	※	可能ならば複数回本人に会うことによって、話を聞き精度の高いアセスメントを作り本人が困っていること、不安なことを利用に至る前に把握する。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 施設の見学をしてもらっている。その時に家族の話を聞く機会を設けている。	※	情報不足により利用後に問題が起きることがあるのでじっくりと家族と話す時間を設ける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 切迫性の高い利用希望者が多く、必要とされている24時間介護の支援を本人家族に伝えて安心して頂いている。本人家族の意向があれば他のサービス利用にも対応することとしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) サービス開始直後はできるだけ頻繁に家族に来て頂くよう声かけし、居室でのみの話にならないようリビング等で他者を交えて馴染むようにしている。 (外部評価) 「本人の安心と納得を大切にしたい」との思いから、入居申し込みの段階から本人に会い、話を十分聞くよう努めている。管理者は複数回本人に会うことにより、困っていることや不安等を把握し、利用者本位のケアに繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人は誰でもしてもらっただけの立場には立ちたくないということを職員は認識するように努力している。それをふまえて利用者との関係を築いている。また、農業や昔の暮らしぶりなど利用者から学ぶことは多くこちらから教えてもらったりしている。 (外部評価) 高齢者の抱く喪失感の一つである「介護される側である」というような利用者の気持ちを十分理解し、支え合う関係であるよう配慮している。干し柿作りの皮の剥き方、吊るし方、食べ頃等について職員が利用者丁寧に教えてもらう姿を見ることができた。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には本人を支えるためには職員、地域の人、家族みんなの力が必要であるということと話している。支援が受けれる家族には外出にも参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会の少ない家族には定期的な近況報告にてそれとなく面会を求めている。本人に家族へ向けての手紙を勧めたり、電話を取り次いでいる。日々の会話の中でここに至るまでの家族との思い出話などを話すようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 衣服などを季節に合わせて自宅に取りに帰っている。その時、近所の方と話ができるように支援している。職員の勧めで本人と家族さんが本人の生まれ育った里へ行って頂いた。いつでも気軽に家族と外出や外泊などが出来るように対応している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲の良い時もあれば仲の悪い時もあるが、ささいなトラブルは見守るようにしている。それによってよくも悪くも孤立はしていない。特に仲の良い人同士はスタッフが間に入って会話を分断しないように気をつけている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今までサービス利用の契約終了をしても継続的な関わりをした事実はないが常に相談に応ずるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の一部を導入し把握に努めている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握し、共有するために、センター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用し、また申し送りノート等も利用しながらカンファレンス時の資料としている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を使用し、新たな生活歴や馴染みの発見はこまめに追加記入している。個別に毎日の記録を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式とケアプランにおいて一日の過ごし方の流れを把握している。特に個別に支援を必要とする事柄ももりこんでいる。毎日、申し送り、バイタルチェックで心身の状態、現状などの把握を全員で出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は三か月毎に会議を開き更新している。会議には施設長、訪問看護師、職員、本人に参加してもらっている。家族にはアンケートを送付して家族の気持ちを聞く機会を設けている。 (外部評価) 把握した情報や意向を記載した各記録や家族アンケートを基に、3か月毎に介護計画を作成している。カンファレンスには本人が参加することもある。介護計画には長期目標と短期目標の記載欄があるが、職員が課題と感じていることや介護方針が中心となっている。	※	ホームはカンファレンスに家族にも参加してもらいたいと考えているので、今後の取組みを期待したい。また、記録には、本人の求める生活や支援等、本人の目線に立った表現の仕方について検討し、職員間で統一することを期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の変化を見逃さず家族、ドクター、職員らと話し合い、必要なサービスの追加や不必要なサービスの削除を行っている。 (外部評価) 介護計画は利用者本位を大切にしているが、職員が行う介護方針・計画であるため、モニタリングは職員自身の評価になっている。それを踏まえ、主治医、訪問看護等を含めて関係者で話し合い、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記号や番号を使って記録を行い、利用者の気持や発言、一日の中での変わったことなど大事な情報が共有しやすいようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) かかりつけ医の支援が昼夜問わず受けやすいのと、訪問看護ステーションとの24時間の看護契約と夜勤者の配置による夜間帯に介護の必要な利用者は、支援が受けられる。 (外部評価) 医療連携体制の確保、医療機関への通院介助、外泊支援や買い物、「いきいきサロン」への参加等、利用者や家族の要望により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地元のボランティアの方と一緒に散歩をしたり歌を歌ったり、時には、演奏を聴かせてもらったりして。地域の消防署や消防団と近隣の方との災害避難訓練を行っている。地域の小学生や幼稚園児が再々に訪れ小さな子供たちに囲まれる癒しの時間の支援をしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向は、今のところは無いが家族の都合で他の施設への入居や他のサービス利用の意向があれば対応している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 具体的な協働はない。権利擁護の学習はしているが、お金や、家屋など財産にかかわる問題は利用者と家族とのナイーブな問題になるので介入はしていない。	※	総合的かつ長期的なケアマネジメントとは具体的に何かを指導して頂き実践していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医が当事業所の施設長である。もし、特に具体的に要望があれば対応する。専門的な受診が必要であれば、かかりつけ医に紹介状を書いてもらったり本人、家族の希望の病院で受診をしてもらってる。 (外部評価) ほとんどの利用者は運営者の勤務する医療機関をかかりつけ医としており、日常的には往診で対応している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医が認知症に詳しい医師であり職員と状態を話し合ったりしながら診断をおこなっており、認知症に必要な薬の処方をしてもらったりしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 契約している訪問看護ステーションからだいたいいつも同じ方が最低、週に一回来られて利用者の健康チェックを行っている。職員は、利用者の状態を報告しながら相談をしている。カンファレンスにも参加してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、情報提供書を病院に提出している。その後は、顔なじみである施設の職員らが千羽鶴や写真等を持って面会に行き入院中の精神的な安定をはかっている。その折に、看護師などからの情報を頂いている。退院時にも病院からの情報提供をうけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化対応、終末期ケア対応指針があり家族様、ご本人との同意書がある。重度化した場合やするおそれがある場合は、すぐにかかりつけ医や職員が本人の心身の状態の報告や今後のケアの方針を家族と相談している。 (外部評価) 重度化対応及び終末期ケア対応の指針があり、家族に同意書を得ている。「人生の終末期の状態になっても馴染みの関係での生活を維持し本人が望む場所で最後まで暮らす」という目標を共有した上でケアに取り組んでおり、現在までに2人の看取りを経験している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 事業所でできている指針の下で日々の状態の把握を職員は記録し、かかりつけ医、訪問看護、家族様と情報をみんなで共有しながら苦痛なく終末期を迎えられるようにしている。出来ること出来ないことは、かかりつけ医と家族様と密に相談しながら行なうようにしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族様の都合で自宅に戻られた方があったが、急な話であるのと一方的であったため十分な話が出来なかった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報に係る書類などの施設外への持ち出しは禁止している。また、職務上、知り得た個人情報を口外しないことを職員は、認識している。失敗やできなかったことに対する対応には、特に注意している。		
			(外部評価) 個人情報については職員で共有して徹底しており、ホーム玄関には家族やボランティアに対しても理解を求める掲示をしている。	※	浴室前廊下に入浴チェック表を設置して一人ひとりの入浴状況を記入しているが、「入浴拒否」という表現については、表現を変える、他人には見られないようにする等の検討を職員間で行ってみたいことを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 思いや意思表示が、都度よく変わる方に対してその時その時の意思や思いを尊重している。また、自ら思いや意思を話されるような対話を心掛けている。大体は、希望に沿った支援に取り組んでいるが帰宅願望の強い方のここで生活をするんだという納得には至ってない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床、就寝時刻や散歩の時間など大まかにあるタイムスケジュールを画一的にせずその人のペースや要望になるべく応えて実施している。外出時、行きたくない方を無理には連れて行かないようにしている。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールは大まかに決めてはいるが画一的なものではなく、利用者の希望に沿ったその人らしい生活になるよう、職員間で連携を取りながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容、美容は、地域内ならば、本人の希望に応じて店に行けるように予約を行ったり送迎をしている。家族様に連れて行ってもらう方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を立てるときには、利用者の希望を聞いたり、畑で収穫した野菜や、地域の方や家族様に頂いたものをどのように調理するかその都度相談して。準備や片付けには、以前ほど利用者と一緒に出来なくなった。簡単な皮むき、味見、食器拭きを一緒にしている。 (外部評価) 利用者の中には長年調理師をしていた方もおり、収穫した野菜や頂いた食材の味付けや調理法はその都度相談している。食事の準備や後片付けを一緒にできる利用者は少なくなってきたが、皆でおやつや夕食の献立を考えるなど、食事が楽しいものになるよう配慮している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の誕生日は好みのものを用意するようにしている。お酒はお正月や家族会等の行事の際に飲まれることがある。買い物や、家族様からの差し入れのおやつには、特に制限をしていない。しかし、アメの食べ過ぎで食欲がなくなる方がいるのでそうならないように注意して見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 現在のところオムツを使用している利用者はいない。パットを常時使ってる方が3名。排泄に関して一人一人の特徴や力を把握しそれぞれに合わせた対応をしている。	※	自立度の高い人の中には、排泄の失敗が多い方があるので少なくなるように工夫をしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 冬、週2回、他は、週3回、午後からの入浴支援を行っている、その中で、入る順番やタイミングを選んでもらっている。 (外部評価) ホームでは週3回の入浴を基本としているが、利用者はその日の体調や気分で入浴しないこともある。浴槽に浸かると喜ばれるのに誘導するまでが困難な方に対しては、声かけや対応を工夫しながら、納得して入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) なかなか寝付けないときや発声や独語など不穏時には、訪室し話しを聞いたり歌などを横で歌ったりして気持ちが落ち着き安心して眠ってもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事の準備、後片付けや洗濯物たたみ、出来る方には、施設内での清掃をしてもらっている。散歩、外出、買い物、歌、楽器の演奏、テレビなど一人一人に応じた楽しみや気晴らしを支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、役割や楽しみが持てるよう支援している。作業等は無理強いないよう、本人の希望を尊重している。作業等がだんだん難しくなっている利用者もいるが、やりたい気持ちが少しでもあれば職員が支援しながら対応している。利用者はお参りや外食を特に楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる方は、所持して頂き買い物時やお寺まわりの時のお賽銭などで使えるように支援している。その時居ない職員や職員の子供へとお土産を買う方もいる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日、その時の希望に対しては、全体的な無理が生じない限りは、外出の支援を行っている。天気の良い日は、基本的に散歩に出るようにしている。 (外部評価) 散歩、買い物、ドライブ、家族に会いに行く等、利用者の希望に応じて出かけている。ホームは地域に開かれているため日常的に地域との付き合いがあり、さらに利用者が戸外に出かける機会も増えている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 出石寺、かまぼこ板展、棚田など個人の希望を反映した外出計画を立てている。家族や親戚の方に松山の方に外出、外泊をされる方もいる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、概ね希望通りにしてもらってるが、利用者によって使用頻度に大きく差がある。迷惑がられる時もありご本人の情緒不安定の原因となることもある。手紙は、代筆も行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 職員は、来訪者に対しては、堅苦しくなくフレンドリーに接するが出しやばらず穏やかな雰囲気作りに努めている。面会簿をつけて名前や顔、ご本人との関係などを憶えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は、していない。身体拘束に関する研修会を施設内で行った。介護保険法指定基準を見やすい場所に掲示している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間、玄関のみ普通の家庭用の鍵はかけている。それ以外に鍵はない。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵はかけられておらず、職員の見守りによる安全確保に努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 外に出るのか玄関先でくつろぐのか利用者に監視されていると思われないようにさりげなく確認をしている。夜間は、利用者の安眠を妨げないように訪室し安全を確認している。無断で利用者の居室に入らないようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ハサミやカッターは、リビングの文房具入れにあるが利用する方は少ない。ポットのお湯は、使い方を説明して自由に使っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒の予測がある場合は、職員みんなで注意を払っている。誤薬がおきないように管理し確認を3回行うようにしている。防災訓練を定期的に行い、一人一人の脱出力の把握をしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急法や施設にあるAEDの取り扱いについての研修会や訓練を行っている。急変による緊急時の対応マニュアルを作り見やすい所に掲示している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災、避難マニュアルを作成し、日頃から避難口、避難場所については、利用者に伝えており職員も訓練を通じて熟知出来ている。避難訓練のときには、常に近所の方にも協力して頂いているとともに、地元の消防団との訓練も実施している。 (外部評価) スプリンクラーは未設置であるが、消火器や火災報知器は設置されている。年6回、地域を巻き込んだ訓練を実施している。本年12月には、重篤な方の搬送方法等の訓練を予定している。勤務の都合等で訓練に参加できない職員がでないよう、全職員が訓練に参加する必要性を重視し、訓練回数を多くもっている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 状態の変化によって変わりゆくリスクに対して家族様には、面会時や電話などでかかりつけ医や職員が都度説明している。	※	リスクマネジメントの担当者の設定と研修会を行いたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴時、外出時には、バイタルチェックを行っている。観察、確認をして食欲、排泄、全身状況に異変を感じたり利用者からの些細な訴えにも耳を傾け報告、情報を共有して対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員間に、知識や理解の差がある。薬の管理の担当者を二人配置し確実な分包に努めている。内服変更や追加については、かかりつけ医が職員の報告を聞きながら直接確認をしている。利用者の状況に応じて服薬の介助や確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が原因で利用者が不穏状態になることへの理解は出来ている。水分摂取量の確保と排便確認、献立内にヨーグルトや牛乳をとりいれたり食物繊維の摂取を意識している。腹圧をかける運動や散歩など腸への刺激を意識した運動をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 必要な場合は、声かけや介助で支援しており口腔ケアの研修会を行った。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや状態により気を配り食欲の少ない方には、エンシュアを飲用して頂いている。栄養バランスは、食材担当者が担当、行政や近くの施設の管理栄養士に献立を見てもらい指導をしてもらっている。水分確保のために、自由にお茶を飲めるようにしている。不足がちにならないように声をかけて少しずつでも飲んで頂けるようにしている。 (外部評価) 前回の外部評価で栄養士の指導を受けてはどうかとの意見があり、栄養士に依頼して職員が講義を受講している。食事量や水分量は摂取状況をチェック表に記録している。介助の利用者には傍らで優しく手際良く食事介助している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 施設内に見える所にマニュアルを掲示してある。施設外での研修会に参加し、また、勉強会も開き知識や理解を深め、かかりつけ医や看護師からの指導や助言をいただいている。ノロ対策で、一日3回は、手すりやハンドルなどをジ亜鉛酸ナトリウムで拭いている。インフルエンザは、予防ワクチンを全員接種。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具の消毒と入念な手洗いに気をつけている。週に一度は、夜勤中に冷蔵庫内のクリーンネスと食材の賞味期限の確認、整理をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ブロック塀などをせず開放感を持たせ花木を植えて玄関わきにベンチを3台置いてある。ベンチには、だいたい人がおり、複数の利用者や散歩途中の近所の方の憩いの場所になっている。職員と利用者が二人っきりで話せる空間にもなっている。手すりをつけたり段差を無くし楽に出入りができる。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には、手すりがあり移動を楽にしている。居間と食堂は兼用で台所とは、対面にしており会話しながら調理などができる。浴室は、車椅子でも十分に入れて手すりをつけて安全に配慮をしている。トイレは、よく汚れていたり流されていない時があるので職員は、こまめに確認に行っている。 (外部評価) 共用空間には開閉式の天窓があり、採光や換気ができる。廊下には手すりを設置し、利用者のスムーズな移動を助けている。壁には利用者の写真や作品が飾られており、インテリアとして馴染んでいる。広い窓からは豊かな自然を見渡すことができ、心地よい空間となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人一人に席が確保されている。テラスで独りで過ごされる方もいる。ソファがあり仲の良い利用者同士でおしゃべりやテレビを観たりしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 大きな家具の持ち込みをされてる利用者は居ないが、細かい使い慣れた道具は、各々持ち込み使用してもらっている。持ち込みに特に制限はない。整理整頓は、職員、利用者が一緒にしている。 (外部評価) ホームが準備した家具もあるが、自由に使い慣れた家具を持ち込んで使用している。写真や絵等も飾られており、居心地良く過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 尿臭や便臭で不快な思いをしないように換気や消臭除菌剤散布をしている。職員一人一人が注意して空気のだよみがないようにしている。温度調整は、職員がこまめに切り替えているが、朝・昼・晩や春夏秋冬の感覚が失われぬようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 玄関、廊下、トイレ、浴室には、手すりを設置し、障壁になるような物をなるべく置かず、施設内での活動が安全に出来るようにしている。	※	各自の体格に合わせた机や座椅子・便座の工夫をしたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 安全面、衛生面など高齢者が生活しやすいようにされた施設内設備は、ほとんどのことで昔からの馴染みとはいかないので、職員は、その方が、何をしようとしているのかを事前に察知し一緒にしたり説明することで混乱や失敗をしなくて済むように努力している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の周りは、きれいな道路であり、遠くの散歩が出来にくい方には、歩くのに丁度よく、周りの家の草木を見たりお地蔵さんを拝んだりしながら楽しまれている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	思いや悩みを口に出せる利用者は、カンファレンスの時に入ってもらっている。そうでない利用者のことは、仕草や発言、その時の感情の中の気持ちを其の方の身になりみんな考えている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	日によって場面の回数は違うが、入浴時や食後やおやつ後にリビングや玄関先や庭などでのんびりおしゃべりをしたり、一緒に山を眺めたり近くの田畑の具合をみたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	画一的なサービスではいけないが、集団生活の中では、どうしても個々のペースを守れない場合がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気持や気分の上下があるのを活き活きと捉えるならば、常に寄り添い一緒にいることで利用者の表情や姿は見れている。その中で、職員は、利用者の心の裏表を推し量りながら接していく努力をしている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたい所にもよるが、ほぼ毎日散歩をしている。具体的な希望は、少ないが、お寺まいりや買い物の希望あれば出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医の自宅がすぐ近くなのと、環境・安全・衛生の担当者を中心に利用者の施設内での安全に配慮をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況の変化や要望に敏感に反応し、ホーム長を中心とした柔軟で迅速な対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時の会話やホーム便り電話などを通じ信頼関係の維持に努めている。しかし、利用者によっては、家族との関係の緊密さに不十分などところがある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	地域の方は、ほぼ毎日、散歩中の時や、野菜などを届けたり等で訪ねてくれる。しかし、利用者自身の昔からの馴染みの方というのは、たまにである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議には、地元の区長さんや自治会長さん、民生委員さんら多数の地域の方が参加している。事業所内に、地元に住む職員がいたり、地域の色んな役を引き受けることで多くの方々とつながりを広げ、関係を深め理解、応援を受けられるようつとめている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行事計画や食事、安全・衛生、環境整備、園芸等、施設内での自分を中心とした役割と責任を各自が持ち勤務している。カンファレンスの時も活発に意見が出る。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員から見ればであるが、現在の福祉サービスの状況の下、出来る範囲の満足に値するサービスの提供はしていると思うが、一人で生活したいと思ってる方や、病院で生活したいと言われる方がいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ここに来てから（利用者が）すごくよくなったと言われる家族様がほとんどである。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

個性豊かな利用者たちとの間に職員が入り、賑やかな大家族のような雰囲気のあるホームである。事業所としては、設立当時から地域密着のサービスに拘ってきた。事業所の地域への浸透性は出来てきたが、中の利用者と地域との関わりという点ではまだまだであるので、今後は、この場所が地域の人とのふれあいの場所となるようにしていきたい。ボランティア資源の活用で利用者の生活の活性化を図りたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) どじょっこ

記入者(管理者)
氏名 力石 淳子

評価完了日 平成 20 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域の中でその人らしさを大切にしてその人のペースに合わせて生活していける様な理念になっている。 (外部評価) 開設前に運営者がホーム周辺の民家を全戸訪問し、地域密着型サービスやホームの意義等を説明している。「地域とのふれあい」を大切に活動を展開しているが、平成20年度は「地域に何が出来るか?利用者一人ひとりが地域においてどのような役割が果たせるか」を念頭において取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を忘れることのないよう玄関先、リビング等に掲げてありその理念を念頭におき、毎日取り組んでいる。 (外部評価) 理念はチームケアの根幹をなすものと理解しており、日々の教育も理念に基づいて実施している。管理者と職員は理念を共有したうえで、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 御家族の面会も多くあり、その際に分かってもらえることも多くある。又、月に一度のあまごだよりを送って理解してもらえるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 朝、夕の散歩時の挨拶はよく出来ている。野菜を頂いたり玄関先にベンチを置いてあり近所の方も立ち寄って頂き一緒に話をしたりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 老人会の方、地元の小学生、幼稚園生の来所があったり、地元での運動会、学芸会などの行事に参加して交流をはかっている。 (外部評価) 小学校、保育所、運営者の自宅を開放して実施する「いきいきサロン」との相互の交流は活発に行っている。子どもたちはホームに立ち寄って利用者と会話をしたり、ホーム周辺で遊んだりしており、利用者は子どもたちを見守っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の集まりであるふれあいいきいきサロン幸輪会を施設長自宅を開放し月に一度開催している。又、地域出身の利用者も参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員が自己評価を行い、具体的に話し合いを持ち改善に取り組むようにしている。外部評価に関しては前向きに受け止め改善していくべきと所はしていくように取り組んでいく。 (外部評価) 全職員が全項目を自己評価し、全員で話し合っって作成している。前回の外部評価で改善点として挙げられた項目については十分話し合い、具体的な改善策を見出して具体的に取り組んでいる。	※	外部評価結果は運営推進会議で報告しているが、今後は自己評価の時点から運営推進会議のメンバーや地域の方々の参加を求めたいと管理者は考えているため、今後の取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 三か月に一度、推進会議を開催している。地域の方々、行政職員、グループホームの役員、スタッフ、利用者さん御家族など参加して頂き様々な話し合いが持たれそこでの意見をサービス向上に活かしている。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催しており、参加メンバーの立場は多彩で、内容にも工夫が見られる。運営推進会議の議長である自治会長は「ホームができて地域全体が活性化し、助け合いの精神が養われている」と話している。町内のグループホーム合同運動会への参加という形で運営推進会議を開催するなど、開催方法にも工夫がある。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 推進会議以外にも家族会や町内GH合同運動会にも参加して頂き、市町村ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 町内グループホーム連絡会があり、相互に連絡を取り合うなど町との連携はとれている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に行ったり月に一度行われる担当者会議の際、全員で勉強会を行っている。現在のところは利用している人はいない。	※	今後必要である方もおられる可能性があるのもっと理解していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に行ったり月に一度行われる担当者会議の際、全員で勉強会を行っている。	※	絶対にあってはならない事なので間違いの起らないよう今後もしっかり学ばなければいけない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明をし、質問、疑問等きちんと聞き入れ、納得していただくようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ふれあいを多く持ち、その様な事を聞けば管理者、職員で話し合う。又、言いにくい場合にはご意見箱を設置しているのでそこを利用して頂く事になっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 「あまごだより」を月に一度作成し、近況報告などを書き、発送している。金銭管理については面会時に出納帳に目を通してもらっている。 (外部評価) 家族の来訪時や、利用者に変化があった場合にはその都度丁寧に状況を報告している。月1回発行のホーム便りには利用者ごとの担当職員がメッセージを記入する欄を設けており、最近の状況等を記入して知らせている。	※	管理者及び職員は、もっと情報提供や報告の機会を増やしたいと考えており、メールやインターネットの活用も含めて検討している。些細なことでも、職員の感じたことなどを家族に伝える方法などについてさらに工夫することを期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関のところにご意見箱を設置している。意見、不満、苦情など言いにくい場合にはそこを利用して頂く様になっている。 (外部評価) 来訪時や、家族会・運営推進会議の時などには家族に意見等を聞くようにしている。また、苦情相談窓口を明示し、玄関に意見箱を設置する等、意見等を伝えてもらう場は設けているが、苦情に類するものは出されていない。	※	管理者及び職員は、家族との結びつきが弱いことをホームの課題と考え、今後の取り組みを検討している。「家族と共にホームを運営する」ことができるよう、時間をかけて家族の協力を得ながら運営体制を工夫していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見や提案は担当者会議や普段の中でも聞いてもらえる機会はある、職員と運営者、管理者は分かり合えていると思う。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務も希望がとれ、交代も可能であり、ボランティアの必要な時には協力を得たりと出来るだけ勤務の調整に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職など必要最小限に抑える配慮をし、もしそうなった場合、あまごだよりにてご家族には早急にお知らせしている。 (外部評価) 職員の離職はほとんどなく、職員は2ユニットどちらの利用者とも顔馴染みになれるよう、日頃から声かけ等に十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を与えてもらったり一か月に一度の担当者会議には勉強会を設けている。研修後も勉強会の後にもレポートとしてまとめをしたりとそれぞれが勉強するように促している。 (外部評価) グループホーム連絡協議会等の外部研修にはホームから参加を呼びかけ、参加経費はホームが負担している。研修報告は文章及びホーム内研修会での伝達としている。職員は介護福祉士等資格取得に対して積極的で、職員同士で声をかけ合いながら取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月に一度、GH連絡協議会があり管理者が出席し様々な意見交換が行われおり、サービスの質の向上のための取り組みをしている。 (外部評価) 毎月開催される町内グループホーム連絡会に参加し、研修を含めた情報交換をしている。また、連絡会として地域の方も巻き込んだ合同運動会や認知症講演会を開催し、好評を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年に数回、一緒に食事に行ったり忘年会を設けてもらったりと楽しい時間を作ってもらっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員、個々の努力、実績、勤務状況などしっかり把握されていると思う。ほめていただいた時は頑張ろうと思う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 納得のいくまでご本人の話を聞く機会を作り、受け止める努力をしている。出来ていると思う。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会の際などに話をすることが多く、不安や希望を聞くことができる。信頼関係が築けるよう心掛け、話を受けとめている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その時にどうすべきかの判断をきちっとするよう心がけている。本人らしく生活できるよう支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人が納得して入所していただくということがここで穏やかに過ごしていただくための一番大切なことであるため要望にこたえられるよう努めながら場になじむようふれあいを多く持ち、工夫している。 (外部評価) 「本人の安心と納得を大切にしたい」との思いから、入居申し込みの段階から本人に会い、話を十分聞くよう努めている。管理者は複数回本人に会うことにより、困っていることや不安等を把握し、利用者本位のケアに繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に食事を作ったり、コミュニケーションをとったりして人生の先輩として教わることも多くある。また、一人ひとりの利用者さんに対し、その人の事を考えよ寄り添う介護をし喜怒哀楽を共有している。 (外部評価) 高齢者の抱く喪失感の一つである「介護される側である」というような利用者の気持ちを十分理解し、支え合う関係であるよう配慮している。干し柿作りの皮の剥き方、吊るし方、食べ頃等について職員が利用者に丁寧に教えてもらう姿を見ることができた。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでは十分に御本人を支えることはできないので御家族と連絡を密にとり、協力していただきながら信頼関係を築き共に支えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会に来られた際に近況報告などをしたり本人の希望を伝え、外出や外泊などお願いしたりすることもある。本人が悩んでいた、寂しい思いをされているときには電話、手紙などを出している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の行きたいところや会いたい人のところへお連れしたりする。手紙や電話など一人ひとりに合った支援を心がけている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) レクリエーションなどを通して利用者さん同士が楽しく、気軽に会話ができるように支援している。うまくいかない場合にはスタッフが中に入り、関わり合い、支え合って生活できるよう支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 地域の行事等で御家族に出会うこともある。こちらからは断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さん一人ひとりとよく話をし、出来るだけ意思を尊重しその方の希望に添えるよう努力している。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握し、共有するために、センター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用し、また申し送りノート等も利用しながらカンファレンス時の資料としている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 御本人、御家族の話聞き、把握に努めている。本人の希望があればご家族の許可を得て自宅近くの畑や山にいき、野菜、花など取りに行ったりしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケース記録にまとめ、申し送りをしていて職員一人ひとりが把握し、その情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月に一度、担当者会議にて利用者さんの介護計画が作成できるよう、主治医である施設長、訪問看護師さんと交えて話し合いを行っている。 (外部評価) 把握した情報や意向を記載した各記録や家族アンケートを基に、3か月毎に介護計画を作成している。カンファレンスには本人が参加することもある。介護計画には長期目標と短期目標の記載欄があるが、職員が課題と感じていることや介護方針が中心となっている。	※	ホームはカンファレンスに家族にも参加してもらいたいと考えているので、今後の取り組みを期待したい。また、記録には、本人の求める生活や支援等、本人の目線に立った表現の仕方について検討し、職員間で統一することを期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化が生じた場合には現状に即した計画を作成している。介護計画の見直しは三か月に一度、主治医である施設長、訪問看護師を交えて行っている。また、変更があればご家族に早急に伝えるようにしている。 (外部評価) 介護計画は利用者本位を大切にしているが、職員が行う介護方針・計画であるため、モニタリングは職員自身の評価になっている。それを踏まえ、主治医、訪問看護等を含めて関係者で話し合い、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活はケース記録に記入し、利用者さんとの会話の中に気づいた事があればふれあいタイムに記入し、また申し送りノートに記入して情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 病院の受診、往診、生活用品の買い物など御家族と連絡を取りながら本人の希望を取り入れ臨機応変に対応している。 (外部評価) 医療連携体制の確保、医療機関への通院介助、外泊支援や買い物、「いきいきサロン」への参加等、利用者や家族の要望により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 幼稚園、小学校、多種多様なボランティアの来訪で地域との交流が出来ている。また、消防士には防火訓練、避難訓練で指導、助言等頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 緊急時や24時間対応の訪問看護ステーションとの連携、一週間に一度の健康チェックを行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護を利用している方は現在のところいない。	※	今後必要となってくると思われるのでしっかりとっ学んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医が施設長であるため、利用者に変化があれば連絡し、対応している。ご家族も利用者さんも安心しておられる。 <hr/> (外部評価) ほとんどの利用者は運営者の勤務する医療機関をかかりつけ医としており、日常的には往診で対応している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医が施設長であるため、職員が悩んだり迷ったりしているとすぐに相談にのってもらえたり助言してもらえ。また、迅速な診断、治療を受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携しており、一週間に一度の健康チェックもあり、職員の利用者さんの体調に対する相談も気軽にのってもらえる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 主治医が施設長なので入院の場合はその方の状態など随時聞くことができる。退院される場合にも備えることができる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 御家族と施設長である主治医、職員とが話し合いを持ち全員で情報を共有するようにしている。 <hr/> (外部評価) 重度化対応及び終末期ケア対応の指針があり、家族に同意書を得ている。「人生の終末期の状態になっても馴染みの関係での生活を維持し本人が望む場所で最後まで暮らす」という目標を共有した上でケアに取り組んでおり、現在までに2人の看取りを経験している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医療に関しては、主治医、看護師にお願いする。出来ることは見極め、指示を受けて一致団結しケアを行っている。また、終末ケアの勉強会も行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換を密に行い、その人の状態を分かりやすく伝え、移り変わった際のダメージを軽減させるために十分に準備をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりに優しく声かけ、びっくりさせたり、怖がらせたりせず、明るく安心できるようにしている。個人情報のプライバシーは保護している。		
			(外部評価) 個人情報については職員で共有して徹底しており、ホーム玄関には家族やボランティアに対しても理解を求める掲示をしている。	※	浴室前廊下に入浴チェック表を設置して一人ひとりの入浴状況を記入しているが、「入浴拒否」という表現については、表現を変える、他人には見られないようにする等の検討を職員間で行ってみたいことを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 無理をさせず、自己決定のできる方にはその判断をゆだねたり、わかりやすく話をすることで納得して頂き、自分らしく生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の暮らしの中で、本人のしたいこと（絵を描きたい方、ベンチで話をされたい方、畑仕事をしたい方など）を尊重し一人ひとりの希望に添った支援を心がけている。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールは大まかに決めているが画一的なものではなく、利用者の希望に沿ったその人らしい生活になるよう、職員間で連携を取りながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 御家族の中に理容美容師さんのいる方は散髪に来ていただいたり美容院へ行きたいとの希望があれば望むお店へ職員と一緒にいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おかずの取り分けをされる方、箸置き、箸を並べてくださる方、食器洗い、食器拭きをされる方とそれぞれに役割を持って職員と共に会話をしながら楽しく行っている。 (外部評価) 利用者の中には長年調理師をしていた方もおり、収穫した野菜や頂いた食材の味付けや調理法はその都度相談している。食事の準備や後片付けを一緒にできる利用者は少なくなってきたが、皆でおやつや夕食の献立を考えるなど、食事が楽しいものになるよう配慮している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) コーヒーの好きな人、牛乳の好きな人など一人ひとりに尋ねながら好みのものを出来るだけ出すようにしている。お酒はお正月と家族会などの行事の際には飲んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 失敗の多い方は時間を決めてトイレ誘導し自力で立位の取れない方もトイレ二人介助にて昼間是对応し極力トイレで排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一週間に三回入浴して頂いている。ゆっくりとスタッフと会話を楽しみながら入浴されており入浴の順番もいつも同じ人から入ってしまうのではなくローテーションして順番に入っている。 (外部評価) ホームでは週3回の入浴を基本としているが、利用者はその日の体調や気分が入浴しないこともある。浴槽に浸かると喜ばれるのに誘導するまでが困難な方に対しては、声かけや対応を工夫しながら、納得して入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) シーツは一週間に一度の交換し汚染があればその都度交換して休んでいただいている。就寝時には清潔な衣服(パジャマ)に更衣してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 農作業や漬物づくり、絵や字を書く、キーボード演奏など一人ひとりの昔からされていたことを活かして職員も共に行いながら生活を支援している。外食などとても喜ばれる。 (外部評価) 利用者一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、役割や楽しみが持てるよう支援している。作業等は無理強くないよう、本人の希望を尊重している。作業等がだんだん難しくなっている利用者もいるが、やりたい気持ちが少しでもあれば職員が支援しながら対応している。利用者はお参りや外食を特に楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理の出来る方は自分で管理されている。そうでない方には職員が現金を御家族から預かり管理している。たまに買い物に行って好きなもの、欲しいものを買ったり自分で買うことの楽しさを提供している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ほぼ毎日天気の良い日には散歩に出かける。ドライブも喜ばれるので季節の感じられる行事や花などを見る時は必ず計画を立てて出かけている。 (外部評価) 散歩、買い物、ドライブ、家族に会いに行く等、利用者の希望に応じて出かけている。ホームは地域に開かれているため日常的に地域との付き合いがあり、さらに利用者が戸外に出かける機会も増えている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 御家族と行かれる方が多い。信仰心のある方はお大師様の日にはお接待やお寺にお連れし地域の方とふれあいとても喜ばれている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望により電話をしたり手紙を書いたりすることを支援している。こちらから勧めて書いてもらったりすることもある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会もとても多くいつもご家族の皆さんやご友人の方など気軽に入っただけよう明るい対応、気持のよい挨拶など心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 担当者会議の際に身体拘束についての勉強会をスタッフ全員が学び、拘束に関しての知識や理解に取り組んでいる。また拘束であるかないかの判断をきちっと行い拘束をしないよう気をつけてケアしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中玄関の鍵をかけることはしていない。(夜間のみ玄関施錠) 居室においても鍵はなくプライバシーを守りながら見守り、声かけをしている。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵はかけられておらず、職員の見守りによる安全確保に努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常時利用者さんの居場所を把握、確認し、プライバシーに配慮しつつ、安全面にも気をつけている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さんの生活の妨げになるようなものは特にない。車いす、シルバーカーは移動しやすいよう、スペースをあけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 研修で学んだり、担当者会議にて救急処置を勉強したり避難訓練を定期的実施したりして事故防止に努めている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防士によるAED講習会や担当者会議の勉強会でも取り上げて訓練を行った。また、緊急対応などの手順を各ユニットに掲示しいつでも目につくようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 3か月に一度避難訓練や消防訓練を行っている。その際には消防士や地域の方々にも参加していただき、助言をいただいている。職員も交代で実施し、昼、夜と設定を変えて行っている。 (外部評価) スプリンクラーは未設置であるが、消火器や火災報知器は設置されている。年6回、地域を巻き込んだ訓練を実施している。本年12月には、重篤な方の搬送方法等の訓練を予定している。勤務の都合等で訓練に参加できない職員がでないよう、全職員が訓練に参加する必要性を重視し、訓練回数を多くもっている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 御家族とも連絡を密に取り合い、一人ひとりを把握、本人中心の暮らしを大切にしたい対応を心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックや全身状態のチェックをし、異常があれば早急に主治医に連絡といった対応をしている。職員は申し送りノートにて全員がわかるように情報を共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬管理表を作成し使用しておりわかりやすくしている。薬の名称、効果、副作用などを理解し間違いのないように確認し手渡している。また、服薬後の症状変化には十分気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の運動、水分摂取を記録として残している。食事の量や排泄のチェックも行っている。便秘がちな方には医師に相談し薬を処方していただいている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは必ず行っている。義歯の方、そうでない方とおられるがその都度見守りし、自力でできない方には付添い、介助を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回の食事の量や摂取量などスタッフがこまめに確認し誰がどのくらい食べたかをきちんと把握するようにしている。水分においても1日1300ccの水分摂取を心がけてそれを達成できるよう声かけをして飲んで頂いている。水分量は必ずチェックしている。月初めに体重測定を行い健康管理にも気をつけている。 (外部評価) 前回の外部評価で栄養士の指導を受けてはどうかとの意見があり、栄養士に依頼して職員が講義を受講している。食事量や水分量は摂取状況をチェック表に記録している。介助の利用者には傍らで優しく手際良く食事介助している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 勉強会で学び、実践している。手洗いの励行、うがい等声かけにて実施している。マニュアルも作成し掲示している。特にインフルエンザやノロウイルス等の時期には殺菌、消毒をこまめに行っており、職員の意識も以前に比べ感染に関しては気をつけるようになった。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、ふきんなど毎日使用するものは必ず消毒、乾燥し、調理器具等は日光消毒することもある。食材は新鮮かつ安全であるものを仕入れて安心して食事できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には季節の花々を植えておりゆっくりと座って話ができるよう、ベンチも置いてある。近隣の方と利用者がそこに座って話をしている光景はよくある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁には季節感のあるものを掲示したり、花瓶には季節の花を生けている。トイレ、洗面所はいつも清潔であるよう汚れたらすぐ掃除するよう努めている。 (外部評価) 共用空間には開閉式の天窗があり、採光や換気ができる。廊下には手すりを設置し、利用者のスムーズな移動を助けている。壁には利用者の写真や作品が飾られており、インテリアとして馴染んでいる。広い窓からは豊かな自然を見渡すことができ、心地よい空間となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) TVの前にはソファがあり好きどころに座ったり寝ころがったりして過ごされている。外のデッキに出て畑、花を見られたり、リビングのイスで職員と話を楽しんだりとそれぞれが自由に過ごす空間がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から昔、愛用していた物やTVや机、ソファ、洋服掛けなど使いなれているものを持参している方もある。また、家族の写真を部屋に貼ったりと居心地よく過ごしていただけるよう努めている。 (外部評価) ホームが準備した家具もあるが、自由に使い慣れた家具を持ち込んで使用している。写真や絵等も飾られており、居心地良く過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) トイレ、台所の換気はきちんと行っている。温度調節も利用者さんに合わせ外気温と大きく差がでないよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており手すりがいたるところにある。段差もなく滑りやすいところも浴室以外はない。浴室には呼び出しプザーがついている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 毎朝、手作りの日めくりをめくってもらっている。朝、夕はカーテンを開け閉めしてもらっている。出来る方には居室の掃除を一緒にしてもらっている。また、居室の名前を分かりやすくしたり、トイレ、浴室にはマークをつけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑を利用して季節の野菜を栽培しその楽しみを提供している。ベランダには花を植え水やりや咲くまでの楽しみを共に共有している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	一人ひとりとふれあい、会話をし、思いや願い、暮らしの意向を把握できるようにしている。それに近いものになるように一人ひとりに対し支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒にソファに座りトランプをしたり話をしたりお茶を飲んだりベンチで座ってゆっくりと過ごしたりしている。散歩時の会話もよく弾み、一緒に楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	絵を描きたい人方、休みたい方、畑仕事がしたい方、花の手入れがしたい方など一人ひとりのペースでそれぞれに合った暮らしを支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	レクリエーション、ドライブ、歌や詩吟などそれぞれが生き生きとした表情で楽しまれており、またこれら以外にも生き生きできる場面を見つけていくことも大切だと思う。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月に一度は計画を立てて行くようにしている。季節が感じられる場所や買い物に行ったりしている。この前は外食に行きとても喜ばれた。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	施設長が主治医なので異変があれば早急に連絡し対応して頂いている。また、24時間体制で訪問看護ステーションと連携しており週に一度の健康チェックも行っている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの状態、心境に合わせて対応するよう心がけており、スタッフも情報を共有しその方に合わせた支援をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会に来られることが多くその際によく話をすることができるので信頼関係が築けていると思う。また、変わったことがあれば電話等で早急に連絡するようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	季節の野菜を頂いたりベンチで近隣の方、利用者さん、スタッフ等で座って話をされ笑い声がよく聞こえる。また、最近では栗を頂き、利用者さんと一緒に皮をむき、お寿司をつけてお返ししたところ、とても喜ばれた。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	推進会議、家族会、地元の小学校、幼稚園、老人会、いきいきサロン幸輪会、行政とのつながりが広がり、深まったと思う。地域の皆さんにボランティアに来ていただいたりと、事業に対し理解を得ていただいている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	フロアでは利用者と職員の笑い声が絶えない。明るいユニットである。不満をためずに上手に発散していきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	私たちが一生懸命の支援をしてもやはり家族が一番であり、住んでいた家に帰りたいのが本音であると思う。しかし、このホームで私たちができることを精一杯していきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	御家族さんにはよく協力して頂き、職員に対し、“ここに預けて良かった。”との声をよく頂くき、ありがたく感じている。頑張ろうと思える。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

私たちどじょっこスタッフは利用者さん一人ひとりを本当に大切に思っています。一人ひとりにふれあう時間を大切に笑顔がもっとたくさん見られるよう、支援していきます。とても明るくユーモアあふれるユニットです。